

ヒブ Hib ワクチン接種をご希望の方へ

任意接種

～予防接種に欠かせない情報です。必ずお読みください。～

ヒブ 1. 乳幼児の細菌性髄膜炎と Hib(インフルエンザ菌 b 型)

- ①体の中で最も大切な部分ともいえる脳や脊髄を包んでいる膜を髄膜といい、この髄膜に細菌やウイルスが感染して炎症が起これる病気が髄膜炎です。髄膜炎には、細菌が原因の「細菌性髄膜炎」と細菌以外(ウイルスなど)が原因の「無菌性髄膜炎」がありますが、治療後の経過が悪く後遺症が残るなどのため特に問題となるのが「細菌性髄膜炎」です。細菌性髄膜炎の初期症状は、発熱や嘔吐、不機嫌、けいれんなどで、風邪などの他の病気の症状と似ているため、早期に診断することはとても難しい病気です。
- ②乳幼児の細菌性髄膜炎を起こす細菌はいくつかありますが、原因の半分以上を占めているのが「インフルエンザ菌 b 型」という細菌で、略して「Hib(ヒブ)」と呼ばれています。Hib は冬に流行するインフルエンザ(流行性感冒)の原因である「インフルエンザウイルス」とは全く別のもので、また、他の多くの細菌やウイルスとは異なり、Hib は乳幼児に感染しても抗体(免疫)ができず、繰り返し感染することがあります。
- ③Hib による細菌性髄膜炎(Hib 髄膜炎)は、5 歳未満の乳幼児がかかりやすく、特に生後 3 カ月から 2 歳になるまではかかりやすいので注意が必要です。日本の年間患者数は少なくとも 600 人と報告されており、5 歳になるまでに 2000 人に 1 人の乳幼児が Hib 髄膜炎にかかっていることとなります。
- ④Hib 髄膜炎にかかると 1 カ月程度入院と抗生物質による治療が必要となりますが、治療を受けても約 5%(年間約 30 人)の乳幼児が死亡し、約 25%(年間 150 人)に発育障害(知能障害など)や聴力障害、てんかんなどの後遺症が残ります。さらに最近では抗生物質の効かない菌(耐性菌)も増えてきており、治療が困難になってきています。
- ⑤その他にも Hib は、肺炎、喉頭蓋炎、敗血症などの重篤な全身感染症を引き起こします。

ヒブ ヒブ 2. Hib による感染症を予防する Hib ワクチン

- ①Hib ワクチンの接種は、任意で受けてほしい方が自費で受けることになっています。
- ②接種年齢は、2 カ月齢以上になれば受けられます。望ましい接種スケジュールは、初回接種として生後 2 カ月から 7 カ月になるまでに接種を開始し、4～8 週間間隔で 3 回、追加免疫として 3 回目の接種から約 1 年後に 1 回の計 4 回接種します。
- ③Hib ワクチンは、4 回の接種を受けた人のほぼ 100%に抗体(免疫)ができ、Hib 感染症に対する高い予防効果が認められています。
- ④Hib ワクチンの接種後に、他のワクチン接種でもみられるのと同様の副反応がみられますが、通常は一時的なもので数日で消失します。最も多くみられるのは接種部位の発赤(赤み)や腫脹(はれ)です。また発熱が接種された人の数%におこります。重い副反応として、非常にまれですが、海外で次のような副反応が報告されています。
 - (1)ショック・アナフィラキシー様症状(じんましん・呼吸困難など)
 - (2)けいれん(熱性けいれんを含む)
 - (3)血小板減少性紫斑病
- ⑤このワクチンは、製造の初期段階に、ウシの成分(フランス産ウシの肝臓および肺由来成分、ヨーロッパ産ウシの乳由来成分、米国産ウシの血液および心臓由来成分)が使用されていますが、その後の精製工程を経て、製品化されています。また、このワクチンはすでに世界 100 カ国以上で使用されており、発売開始からの 14 年間に約 1 億 5000 万回接種されていますが、このワクチンの接種が原因で TSE(伝達性海面状脳症)にかかったという報告は 1 例もありません。したがって、理論上のリスクは否定できないものの、このワクチンを接種された人が TSE にかかる危険性はほとんどないものと考えられます。

3. 次の方は接種を受けないでください

- ①明らかに発熱のある人(37.5℃以上)
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③過去に Hib ワクチンに含まれる成分、または破傷風トキソイドによってアナフィラキシーを起こしたことがある人(他の医薬品投与でアナフィラキシーを起こしたことがある人は、予防接種を受ける前にお医者さんへその旨を伝え、判断を仰いでください)
- ④妊娠していることが明らかな人
- ⑤お医者さんより免疫不全などの診断を受けた人または免疫抑制を起こす治療を受けている人
- ⑥その他、お医者さんが予防接種を受けることが不適当と判断した人

4. 次の方は接種前に医師にご相談ください

- ①心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気など基礎疾患がある人
- ②発育が遅く、お医者さんや保健師さんの指導を継続して受けている人
- ③カゼなどのひきはじめと思われる人
- ④前回の予防接種を受けたときに、2日以内に発熱、発疹、じんましんなどのアレルギーを疑う症状がみられた人
- ⑤薬の投与または食事で皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある人
- ⑥今までにけいれんを起こしたことがある人
- ⑦過去に免疫不全と診断されたことがある人および近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ⑧Hib ワクチンに含まれる成分でアレルギーを起こすおそれのある人
- ⑨家族、遊び友達、クラスメートのあいだに麻疹(はしか)、風疹、おたふくかぜ、水痘(みずぼうそう)などの病気が流行しているときで、まだその病気にかかったことがない人
- ⑩妊娠の可能性のある人
- ⑪気管支喘息のある人

5. 接種後は以下の点に注意してください

- ①接種後 30 分間は病院にいるなどして様子を観察し、アレルギー反応などがあればお医者さんとすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ②接種後 1 週間は、副反応の出現に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- ③このワクチンの接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、6 日間以上の間隔をあける必要があります。ただし、このワクチンは他のワクチンとの同時接種が可能ですので、同時接種を希望する場合には、医師にご相談ください。
- ④接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすことはやめましょう。
- ⑤接種当日は接種部位を清潔に保ち、いつも通りの生活をしましょう。ただし、はげしい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- ⑥高熱やけいれんなどの異常な症状が出た場合は、速やかにお医者さんの診察を受けてください。
- ⑦接種後 2 カ月間は妊娠しないように注意してください。

もし、ふだんと変わったことがあった場合には医師にご相談ください。

Hib ワクチンの接種により健康被害が発生した場合には、「医薬品副作用被害救済制度」により治療費等が受けられる場合があります。詳しくは、独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページ等をご覧ください。